

平成25年度大学図書館職員短期研修

学術情報リテラシー教育の現状： 東京大学の活動から

平成25年10月2日(京都会場) / 11月6日(東京会場)
東京大学情報システム部情報基盤課
学術情報チーム 成澤めぐみ

目次

- 学術情報リテラシー教育とは
- 大学での学術情報リテラシー教育
- 東京大学の学術情報リテラシー教育活動
- 東京大学の講習会さまざま
(学内オープン・オーダーメイド・部局共催・
分野特化型) -初年次教育との関わり

目次

- リテラシー用サイト運営・資料作成
- 各種広報、情報発信
- 学術情報リテラシー教育のこれから
(学生の変化・大学の変化・ツールの変化、
視点を変えてみる)
- おわりに

学術情報リテラシー教育とは

- 情報リテラシー (information literacy)
⇒ 情報を主体的に使いこなす能力
- 「学術」情報リテラシー教育
⇒ 「学術」に関わるコミュニティ (ここでは大学) における情報リテラシーの習得・維持・向上をめざす意図的な活動

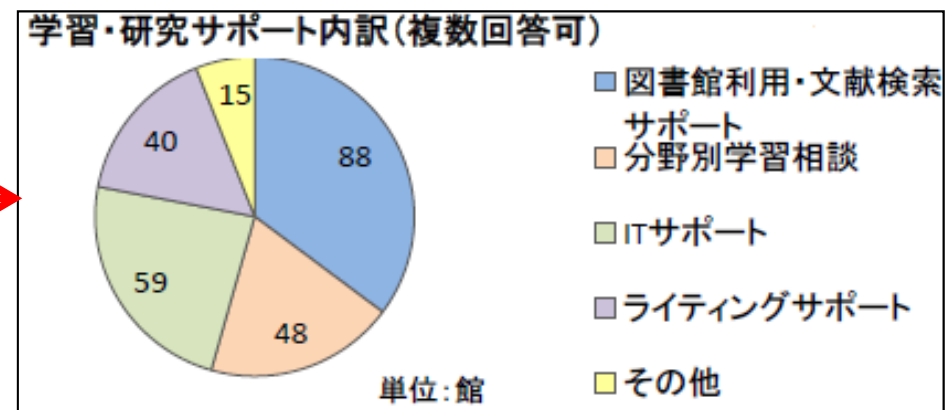
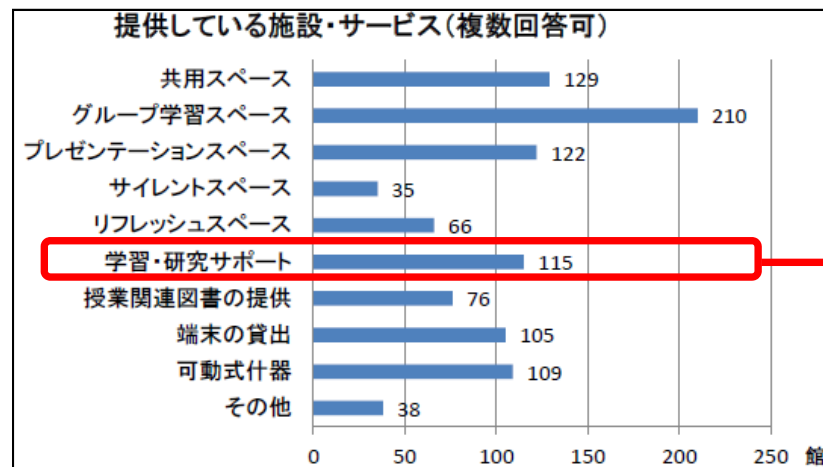
野末俊比古 平成24年度 学術情報リテラシー教育担当者研修
“学術情報リテラシー教育の理論と動向”資料より

大学での学術情報リテラシー教育

近年の調査等

文部科学省 “学術情報基盤実態調査結果報告(概要): **大学図書館編**”
平成24年度 p.10 学習・研究環境の整備

- ・「学習・研究環境の整備」は今回新たに加わった調査項目
- ・“**コンピュータ及びネットワーク編**”には「情報リテラシー教育の実施状況」が以前からあるが、内容・調査項目は、ほぼ「コンピュータリテラシー」



大学での学術情報リテラシー教育

近年の政策等

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会
“大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー”平成22年12月

- ・学生は授業を受けるだけでなく、より自発的な学習や実践の必要性が重視されてきており、大学図書館にもその支援の「場」の提供や図書館職員等による学習支援が期待されている。
- ・大学図書館は、大学における学習、教育、研究活動の変化や新しい動向に対応し、より効率的な支援を展開するとともに、特に学生を中心とする利用者の情報リテラシー能力の向上にはより積極的に関与していくことが望まれる。
- ・情報リテラシー教育は、大学図書館が主体となって取り組むことが求められている。

大学での学術情報リテラシー教育

近年の政策等

科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会

“学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ)”

平成25年8月

- ・学術情報基盤とは、最新の教育研究成果に基づく書籍、論文、データ、教材等のコンテンツ、それらを流通させるためのシステムや情報ネットワーク及び情報を利活用する際の物理的空間や人的支援を提供する図書館を含む概念
- ・アクティブ・ラーニングの推進等、図書館の果たす役割の変化に伴い、様々な学修を支援する活動の企画・実施を担当する専門職として、教員や他の職員とも異なる中間職的な人材が必要になる。専門職の役割は、各大学で設置が進みつつあるURA(リサーチ・アドミニストレーター)的な性格となるが、こうした企画は、主に教員と図書館員との協力で行われることから、その過程を通じて、図書館員の中から育成されるようなシステムを構築する必要がある。

東京大学の学術情報リテラシー 教育活動

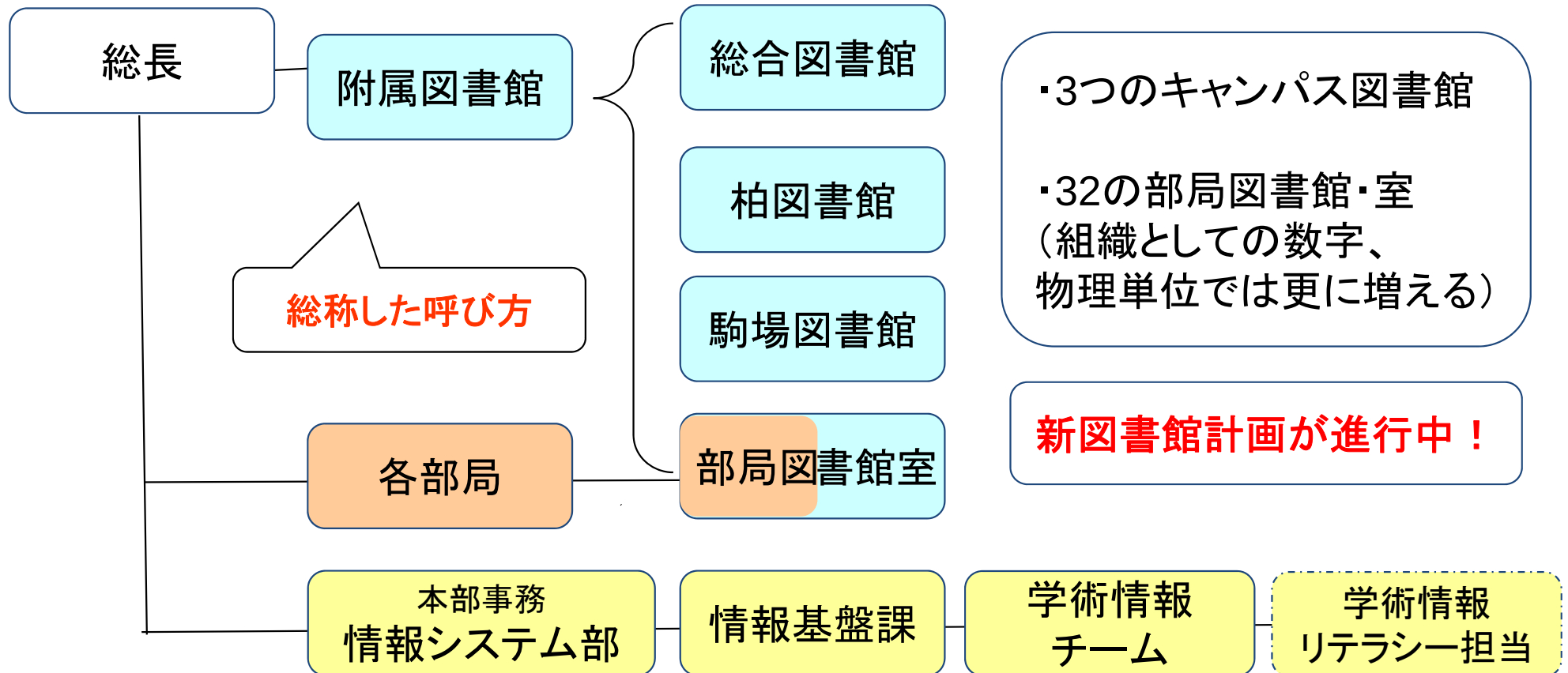
その前に・・・東京大学について

- 10学部、15研究科(院)、11附置研究所、14全学センター、その他総長・総長室直轄の各機構等
- 他に各部局(学部/研究科、研究所等)附属施設多数
- 教職員7,600名、特定有期雇用教職員2,400名
計10,000名
- 学部生14,000名、大学院生14,000名 計28,000名

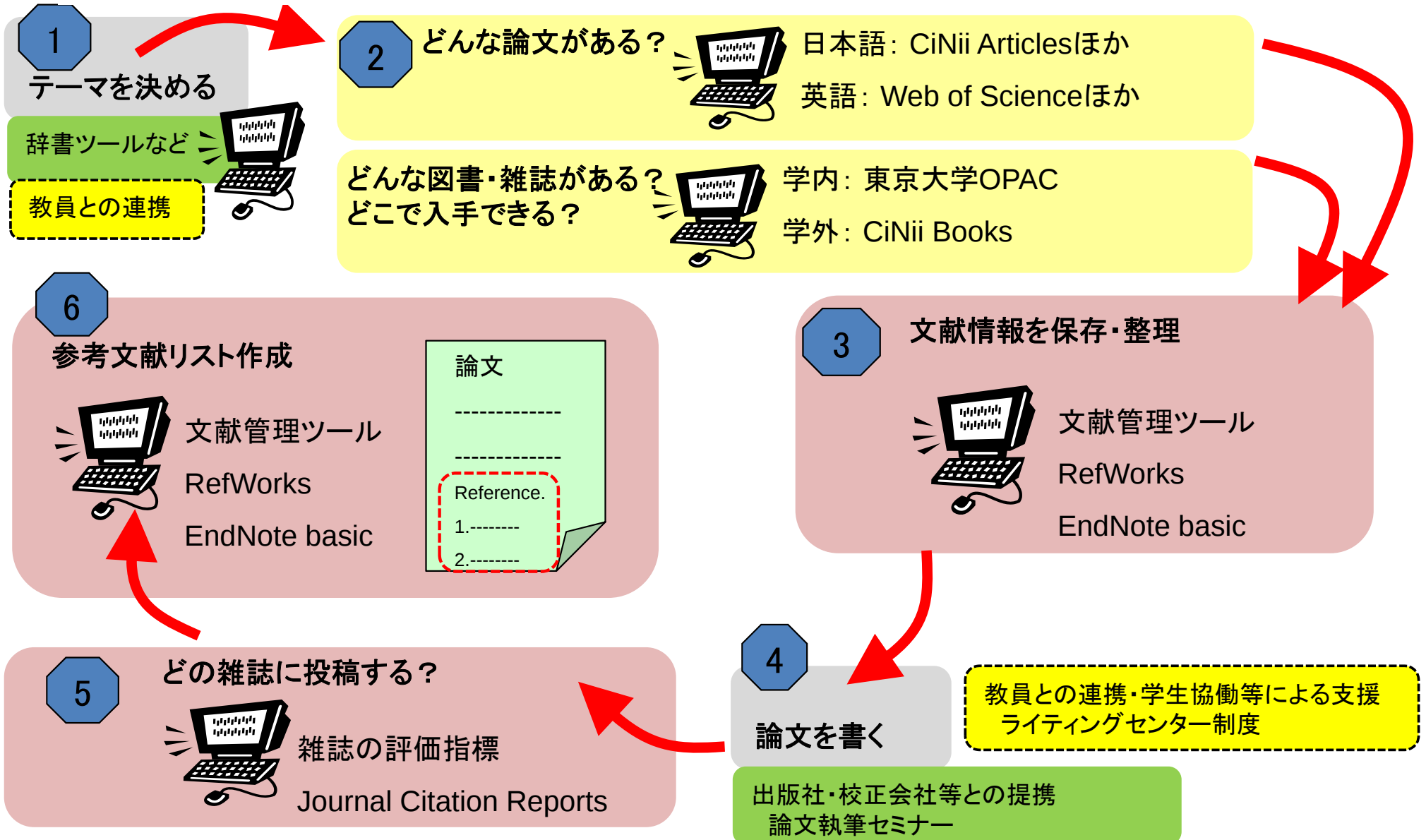
東京大学の学術情報リテラシー 教育活動

& 学術情報リテラシー担当

その前に…東京大学附属図書館について



東京大学の講習会さまざま



東京大学の講習会さまざま

種類	回数	受講者数	備考
テーマ別ガイダンス [うち夜間ガイダンス]	54 [夜12]	302 [夜39]	1つのテーマについて検索実習を 交え解説、学内オープン
留学生向けガイダンス	3	28	留学生向けに外国人講師が担当
データベースユーザ トレーニング	12	109	専門性の高いデータベースに ついて提供元から講師を招聘
秘書さんのための はじめての論文の探し方	3	45	研究補助従事者を主対象として 実施
オーダーメイド講習会	36	523	教員・学生等からの依頼内容に 合わせて実施
図書館・室等との 共催講習会	68	616	図書館利用案内と併せて実施、 特定主題分野の講習会等
合 計	176	1,623	※平成24年度実績

東京大学の講習会さまざま

- テーマ別ガイダンス（学内オープン）

はじめての論文の探し方

論文準備のための文献管理: RefWorks

Google Scholar活用法

同内容で「完全予約制」
夜間ガイダンスも

- オーダーメイド講習会

教養学部前期課程「基礎演習」- 検索実習

ゼミ・研究室内開催(医、工、文、教育 etc.)

個人講習

- 図書館・室等との共催講習会

総合図書館オリエンテーション - OPAC入門(総合図書館)

医学系文献検索早わかり(医学部附属病院看護部)

- 全学横断的なものはない
- 基礎演習 - 駒場図書館ガイダンス＋簡易な検索実習（他に自由参加の駒場図ガイダンスもあり）
- 基礎演習 - 学術情報リテラシー担当による検索実習
- ALESA – 学生支援スタッフ(大学院生TA)への文献検索レクチャー

各図書館室でもそれぞれ
利用ガイダンス等を開催

東京大学の講習会さまざま

- テーマ別ガイダンスの策定

学内オープンなので多くの人に役立つもの

⇒文献検索入門編「はじめての論文の探し方」

あえて分野を絞ることで「自分に役立ちそうなもの」
であると気づかせる

⇒「自然科学系のためのWeb of Science + RefWorks」

⇒「人文社会科学系のためのWeb of Science ...」

学術情報リテラシーが必要とされる場面の想定、
把握によるニーズの掘り起こし

⇒「論文投稿シミュレーション」

New!

東京大学の講習会さまざま

- テーマ別ガイダンスの例：

論文投稿シミュレーション

学内研究者は何を目的として文献検索をするのか？

論文執筆の参考とする、更にその論文を発表・投稿する



- ・執筆論文の投稿誌決定
- ・論文を雑誌投稿規定に沿った形にする(参考文献リストを、各雑誌により決まったスタイルでつけるなど)
- ・リジェクトされたら、別の雑誌に別のスタイルで再投稿

という流れのなかのツール活用方法をガイダンスとして構成

東京大学の講習会さまざま

- オーダーメイド講習会の策定

要望を確認、講習内容等のすり合わせ

⇒会場、時間、参加者数、実習形式か講義形式か

⇒受講対象者の層は？ 求めるレベルは？

⇒分野の近い講習会教材を例示

⇒専門性の高いDB提供元の講師仲介

年度末に、次年度の
予定を照会

⇒ オーダーメイド
講習会の定例化

オリジナル教材の作成

⇒研究室、関連部局サイトから例題用キーワードを拾う

⇒部局図書館のサイトからシラバス掲載図書を調べる

教員の口コミに
よる新規発注

⇒ 1つのオーダー
が次のオーダーへ

東京大学の講習会さまざま

- オーダーメイド講習会の例：

医学系研究科 医療倫理学教室 出張講習

参加者：院生、研究員・助教等の教員 10～15名

形式：各自持参PCによる実習、90～120分前後

希望：医学系文献検索（日本語は不要、英語文献DBで）、
法文献データベースの紹介（日英とも、判例も学術論文も）、
文献管理ツールの使い方

東京大学の講習会さまざま

- オーダーメイド講習会の例:

医学系研究科 医療倫理学教室 出張講習

医学系英語文献検索

⇒PubMed(医学系特化型DB、シソーラスあり)

⇒Web of Science(全分野DB、引用情報をたどる、
引用文献からの検索が可能)

同じ検索例題を使って、
各DBの売りになる部分・
検索方法の違いを見せる

法文献データベースの紹介

⇒Lexis.comほか

検索例キーワードは
医療裁判に関わるもの

文献管理ツール

⇒データインポートはPubMed, Web of Science, OPACから

東京大学の講習会さまざま

- 共催講習会の策定

共催部局との役割分担

- ⇒ 図書館オリエンテーションとの組み合わせ
- ⇒ 講師、講師補助、広報、参加予約対応 etc.
- ⇒ 部局図書館職員のスキルアップ

年度末に、次年度の
予定を照会

⇒ 共催講習会の
定例化

他キャンパス利用者への対応

- ⇒ 地理的ハンディキャップの解消
(駒場、駒場Ⅱ、柏、白金...)

共催講習会の運営手順
を他部局にも応用

⇒ リテラシー担当を
通したスキルの共有

特定主題分野の講習会

東京大学の講習会さまざま

- 共催講習会の例：

医学部附属病院看護部との共催

看護師向けの医学系日本語文献検索

勤務時間終了後、夕方からの開催を希望（17:30～）

大学院数理科学研究科図書室との共催

数学系文献データベース「MathSciNet」講習会

⇒専門性の高いDBでも、学外講師に専門性が見込めない
場合は、可能な範囲で学内対応も

東京大学の講習会さまざま

番外

東大TV (<http://todai.tv>)
で3講演を公開中

- 英語論文セミナー ～国際誌に投稿するために知っておきたいこと

BioMedCentral (医学系オープンアクセス出版社) と協力して開催

論文準備のための文献管理: RefWorks (学術情報リテラシー担当)

Trends in Scholarly Publishing and Open Access (BioMedCentral)

国際誌に論文を投稿するのは四苦八苦
(BMC学術誌編集委員、東大薬学系教員)

Author Academy: Writing to communicate (BMC提携校正会社)

リテラシー用サイト運営・資料作成

- 情報探索ポータルサイト「GACoS」
(Gateway to Academic Contents System)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/index.html>

- ◆ 「ネットでアカデミック」

ネットに先立つ情報検索基礎知識、
コンピュータリテラシーも含む

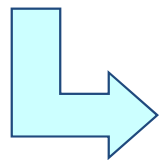
- ◆ リーフレット「文献探しのヒント」



⇒ 日・英・中・韓
4ヶ国語で作成

- 動画教材「文献探しのクイックガイド」

- ◆ 講習会教材コーナーを新設



情報の共有(学外含む)



⇒ウェブ版も
印刷版もあり

各種広報、情報発信

- 内容

講習会開催案内

⇒ 共催講習会は部局内MLで集客アップ

⇒ 学内オープンでも特定分野は関連部局へ個別通知

講習会により有効な
広報手段は異なる

新規サービス、メンテナンス情報等

個々の情報発信から
「学術情報リテラシー教育」
活動全体の認識へ

- 手段

GACoS、東大ポータルへの掲載

メールマガジン「Litetopi」

Twitterの利用

即時性によって、
「前日までの完全予約制」
夜間ガイダンス開催告知も

学術情報リテラシー教育の これから

- 学生の変化、大学の変化

何でも「ググる」世代の文献検索

- ⇒ウェブ版のフルテキストで満足、紙資料を読む発想がない
- ⇒データベースごとの検索方法の相違に気がつきにくい
- ⇒【検索でヒットしないものは、存在していない】

⇔ 電子資料になじみにくい世代への対応も必要

教育・研究の国際化と社会連携

- ⇒留学生ガイダンス、多言語版資料作成
- ⇒英語論文執筆授業との関わり
- ⇒社会人院生への対応 - 夜間ガイダンス、資料のウェブ掲載

学術情報リテラシー教育の これから

- ネット環境、ツールの変化

「まるでGoogleのように」

次世代OPAC、ディスカバリサービス

文献管理ツールの登場と普及

ディスカバリ以外の検索手段
へのナビゲートも

- 視点を変える：大学職員へのサポート

学術情報面から職員への後方支援

～大学運営の後方支援

おわりに

- 図書館だけで完結しない 学術情報リテラシー教育へ
～教育・研究活動との連携、大学運営の支援
- 大学にふさわしい学術情報リテラシー教育はそれぞれ異なる
⇒「東京大学とウチは違う」で終わらせない！
⇒小規模大学・単科大学の強みを考える

成澤 めぐみ(東京大学情報システム部情報基盤課)